

第二級海上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法 規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問

法

規

〔1〕 無線局の免許人は、無線設備の変更の工事をしようとするときは、総務省令で定める場合を除き、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 あらかじめ総務大臣の許可を受ける。
- 2 あらかじめ総務大臣にその旨を届け出る。
- 3 あらかじめ無線設備の変更の工事の期日を総務大臣に届け出る。
- 4 あらかじめ総務大臣の指示を受ける。

〔4〕 無線局の免許人は、その船舶局が緊急通信を行ったときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 速やかに、海上保安庁の海岸局に通知する。
- 2 総務大臣に届け出るとともに無線局事項書の余白に記載する。
- 3 総務省令で定める手続により、総務大臣に報告する。
- 4 船舶の責任者に通報する。

〔2〕 電波の主搬送波の変調の型式が角度変調で周波数変調のもの、主搬送波を変調する信号の性質がデジタル信号である2以上のチャネルのものであって、伝送情報の型式が電話（音響の放送を含む。）の電波の型式を表す記号はどれか。次のうちから選べ。

- 1 F8E
- 2 F2B
- 3 A3E
- 4 F7E

〔5〕 無線従事者が電波法又は電波法に基づく命令に違反したときに総務大臣から受けることがある処分はどれか。次のうちから選べ。

- 1 無線従事者の免許の取消し
- 2 期間を定めて行う無線設備の操作範囲の制限
- 3 その業務に従事する無線局の運用の停止
- 4 6箇月間の業務に従事することの停止

〔3〕 第二級海上特殊無線技士の資格を有する者が、25,010kHz以上の周波数の電波を使用する船舶局の無線電話で国内通信のための通信操作を行うことができるのは、空中線電力何ワット以下のものか。次のうちから選べ。

- 1 100ワット
- 2 50ワット
- 3 10ワット
- 4 5ワット

〔6〕 船舶局の免許状は、掲示を困難とするものを除き、どの箇所に掲げておかなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 受信装置のある場所の見やすい箇所
- 2 航海船橋の適宜な箇所
- 3 船内の適宜な箇所
- 4 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所

第二級海上特殊無線技士試験問題

法 規

〔7〕 一般通信方法における無線通信の原則として無線局運用規則に定める事項に該当しないものはどれか。次のうちから選べ。

- 1 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、通報の送信終了後一括して訂正しなければならない。
- 2 必要のない無線通信は、これを行ってはならない。
- 3 無線通信に使用する用語は、できる限り簡潔でなければならない。
- 4 無線通信を行うときは、自局の識別信号を付して、その出所を明らかにしなければならない。

〔8〕 無線電話通信において、応答に際して直ちに通報を受信しようとするときに応答事項の次に送信する略語はどれか。次のうちから選べ。

- 1 OK
- 2 了解
- 3 どうぞ
- 4 送信してください

〔9〕 次の記述は、無線電話通信における通報の送信について述べたものである。無線局運用規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

通報の送信は、次に掲げる事項を順次送信して行うものとする。

- | | |
|------------|----------------------|
| ① 相手局の呼出名称 | <input type="text"/> |
| ② こちらは | 1回 |
| ③ 自局の呼出名称 | 1回 |
| ④ 通報 | |
| ⑤ どうぞ | 1回 |

- 1 2回
- 2 4回
- 3 1回
- 4 3回

〔10〕 船舶局が無線電話通信において遭難通報を送信する場合の送信事項に該当しないものはどれか。次のうちから選べ。

- 1 「メーデー」又は「遭難」
- 2 遭難した船舶の名称又は識別
- 3 遭難した船舶の位置、遭難の種類及び状況並びに必要とする救助の種類その他救助のため必要な事項
- 4 遭難した船舶の乗客及び乗組員の氏名

〔11〕 船舶局の遭難呼出し及び遭難通報の送信は、海岸局又は他の船舶局から応答があるまでどうしなければならないか。次のうちから選べ。

- 1 応答があるまで、必要な間隔をおいて反復する。
- 2 他の無線局に妨害を与える虞^{おそれ}がある場合を除き、反復する。
- 3 少なくとも3分間の間隔をおいて反復する。
- 4 少なくとも5回は反復する。

〔12〕 次の記述は、秘密の保護について述べたものである。電波法の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、 を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。

- 1 総務省令で定める周波数により行われる無線通信
- 2 特定の相手方に対して行われる無線通信
- 3 特定の相手方に対して暗語により行われる無線通信
- 4 総務省令で定める周波数を使用して行われる暗語による無線通信